

# JIMGAnews

第44号

## JIMGA 平成30年賀詞交歓会を開催



間会長挨拶

1月11日、経団連会館でJIMGA平成30年賀詞交歓会を開催し、経済産業省、厚生労働省、高圧ガス保安協会、日本医療ガス学会など各種関連団体から来賓を迎え、約440名が参集し盛大に行われました。

冒頭、間会長は、日本経済は2012年末から緩やかな景気回復が続いていると述べたうえで、「我々の業界では収益に大きな影響を与えるのは電力料金。導入当初に比べ12倍となった再生可能エネルギー固定価格買取制度の賦課金等電力コストの増加は、業界全体で年間93億円となり大きな負担となっている。賦課金の減免制度は一

昨年の見直しで、減免条件として省エネルギーへの取り組みが評価されることとなった。業界の省エネの取り組み、我々が目指すものの趣旨を各方面にご理解いただきながら、引き続き減免条件の確保と適正な電力料金レベルの実現を目指して頑張っていきたい」と挨拶しました。

続いて来賓挨拶で、経済産業省多田製造産業局長は、エネルギー政策について省エネ補助金や税制措置を税制改正案に盛り込んだことに触れたうえで、「今は先を読むのが非常に難しい時期だが、2018年はチャレンジを恐れることなく次の一手を打つ大事な年にしていきたい」と呼びかけました。

また厚生労働省武田医政局長は、30年ぶりに一新された通知である「医療ガスの安全管理について」が昨年発出されたことについて、「施行にあたり、協会の果たす役割がますます大きくなっていくものと考えている」と期待を述べました。

高圧ガス保安協会の市川会長は、昨年は今のところ大きな事故は報告されていないが、事故件数が前年を大きく下回ることもないとの予測を示し、引き続き皆様にご尽力をお願いしたいとしたうえで「高圧ガス保安のスマート化について、KHKは制度の実務を担う立場であり製造設計に大変苦労したが、その際JIMGAの皆様より助言をいただいた。皆様方と協力しながらこの分野で更に歩を進めていきたい」と述べました。

今井副会長は乾杯挨拶で「我が業界が非常に苦しいなか、頼りになるJIMGAとしてこれまで頑張ってきた。今後も厳しい状況は変わらないかもしれないが、時宜に応じた、業界の要求に適した対応をしていきたい」と意気込みを示しました。最後は鈴木副会長の中締めで盛況裡に閉会しました。

賀詞交歓会の詳細は、3月発行の産業ガスレポート春号に掲載します。（広報委員会事務局 石原 智子）



会場の様子

## 会員紹介 ー川口総合ガスセンター株式会社ー

### 沿革

当社は、昭和34年に旧大陽酸素川口アセチレン工場として発足し、昭和62年に総合充填所としての川口総合ガスセンター(株)が設立されました。

平成20年に一般ガス（酸素、窒素、アルゴン、炭酸、混合ガス）充填設備および容器再検査設備をリニューアルし、月間充填能力80万m<sup>3</sup>の国内最大級の充填所として新たなスタートを切りました。これまでLPGやアセチレンガスの充填も行



CEヤード全景

っていましたが、事業の集約、設備の老朽化などにより廃止し、現在は一般ガスの充填に特化しています。2万m<sup>2</sup>を越える敷地は、荒川の支流である新芝川に接し、荒川からもおよそ500mと東京都との県境に位置し、北関東をはじめ東京へのアクセスも良く首都圏シリンダービジネスの重要な拠点としての役割を担っています。

### より良いものをより安く

当社の基本コンセプトは安定供給です。設備の不具合だけではなく、人為的ミスなどによる供給遅延も安定供給に大きく影響します。

ハード面では、リニューアルを機に、装置故障時の供給停止リスク低減のための主要充填ラインの複数化、充填誤操作防止のためのタッチパネルとの対話方式による充填システム、LGC・カードル充填棟とシリンダー充填棟を分割し車両の停車スペースを増やすことによる容器積降ろしの時間短縮、誤充填防止のためにガス種ごとに色分けした16本組パレットと電動フォークリフト搬送による作業負荷の低減などさまざまな対応を図りました。



シリンダー充填棟

ソフト面では、法遵守はもちろんのこと、事故・トラブル・ミスを起こさないために、教育・訓練、日々のコミュニケーションを重視した情報の共有化ならびにリスク先取りの対応を行っています。メンテナンスでは特に予防保全を心がけた設備の維持管理に取り組んでいます。

出資会社を窓口として販売店や消費者の方々に「より良いものをより安く提供し続けること」を目指し、日々充填業務を行っています。

## 地域とのつながり

当社は、JIMGAをはじめ埼玉県高圧ガス会、高圧ガス地域防災協議会などの高圧ガス関連および消防、労働安全衛生などの関連団体に所属し、さまざまな情報交換を行うとともに安心・安全な社会作りに取り組んでいます。

一例として、川口市消防局から市内に泡を大量に放出することが可能な訓練場所が少ないということを聞き、泡放射訓練の場として3年前から当事業所を提供しています。

また、昨年の埼玉県民の日に行われた県庁オープンデーに埼玉県高圧ガス会会員として参加し、液体酸素、液体窒素を使った低温実験を体験していただき、特に親子連れには大好評でした。

## 今後

今後、更なる自主保安の徹底を図り、安心・安全を提供し地域に貢献できる充填所作りに取り組んでまいります。また、各種方面で取組みが進んでいるIoTやICTは、ヒトを補完する技術として熟練社員退職によるリスク対応などに有効であると言われています。充填所にも充填管理、設備管理、品質管理（分析）、容器管理（RFタグ）など非常に多くの有用なデータがあります。IoTなどの新しい技術で利用できる充填所データの取得や活用を実現するための取組みに積極的に参加し、将来の充填所スマート化に向けた活動に寄与していきたいと考えています。

(川口総合ガスセンター株式会社 代表取締役社長 出村 憲二)



CEへの泡放射状況



はしご車による泡放射

## スウェーデン(SIS)でのISO会議について

2月12日～15日、スウェーデン、ストックホルムのSIS (Swedish Standards Institute / スウェーデン規格協会) で開催されたISO/TC-58/SC4全体会議等に日本代表として出席しました。この会議では容器技術に関するISOが議論されます

WG7が担当しているガスと容器やバルブの金属材料の適合性の規格ISO11114-1:2012についての会議では、昨年5月に行われたSR (規格の定期見直し) 投票時に提出された意見に対して議論が行われました。

WG15の会議ではMAE (Modal acoustic emission) 技術を利用した複合容器の再検査方法の規格ISO 19016について、AFNORからのHyPactor (複合容器の機械的衝撃に対する研究プロジェクト) での実験結果報告をもとに議論されました。長い議論になりましたがMAE検査方法をISO化することは難しいとの結論になり、TS

(Technical specification) 文書として発行することが決定されました。今後WG15のエキスパート等関係者でWG会議を行い、最終的な文書内容の検討が行われます。日本では特定の容器に限定してUT検査 (Ultrasonic testing) を認めることが進められていますが、国際的にはUT、AE (Acoustic emission) 検査はすでに実施されており、複合容器のMAE検査方法まで検討されています。

WG16の会議では溶接容器の定期検査方法の規



会議の様子

格ISO 10460についてDIS (国際規格原案) 段階で各国から提出されたコメント・修正意見51件を一日かけて議論・処理し、次の段階FDIS (国際規格最終原案) に移ることになりました。

最終日は、SC4の全体会議が開催され、現在活動している7つのWGの一年間の活動報告等が行われ、WGコンビーナの再選、UNモデル規則へのSC4担当規格適用の提案、ISO 19016等の今後の進め方等15件の議決を行い終了しました。

次回のISO会議は、2019年2月11日からイタリヤ、ミラノで開催が予定されています。



SISオフィスビル外観



ノーベル博物館

(技術・保安部会事務局 徳富 栄一郎)

## EIGA Winter Seminar 2018

EIGA (European Industrial Gases Association) によるWinter Seminarがベルギーのホテル・ル・プラザ・ブリュッセル (Hotel Le Plaza Brussels) にて1月24日～25日の2日間にわたりヨーロッパ各国のEIGA会員各社より約200名が集まり開催され、JIMGAも会員として参加しました。

今回のテーマは「TRANSPORT SAFETY」(すなわち物流安全!)です。セミナーはまずPhilip Brickell氏 (EIGA事務局長) の挨拶から始まり、Christoph Schütz氏 (組織委員会会長/Messer



会場の様子



Group) による今回のプログラムの紹介へと進み、セッションごとにテーマを決めてメジャー各社等 (Messer Group、SOL Group、The Linde Group、Air Liquide、Air Products) からの司会進行役によるリードにより行われました。各セッションでは4～5の講義内容で各社の高圧ガスローリによる輸送時の安全対策等に関する発表が行われました。

高圧ガスの輸送における問題点やそこに潜む危険は世界共

通です。発表はインパクトのある交通事故の動画が多く紹介され、車両の安全システムやメンテナンス、運転手の注意散漫などの要素やテクニック、モチベーションについてなど多岐にわたりました。

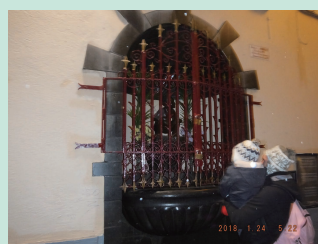


展示されていた  
訓練用シミュレーター

また、会場ロビーではドライブテクニック訓練用のシミュレーターが設置され、天候による制動距離の違いや反応速度の計測が体験できるコーナーや、各企業からのポスターセッション (動画が主流) が開催されていました。



ブリュッセルの世界遺産  
グランパレス



実は少女像もあります

(環境・安全部会事務局 大沼 倫晃)